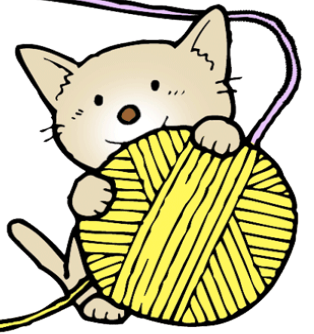


2

研究通信



呉市立広南小学校 令和8年6月26日(金) 文責：大瀬戸

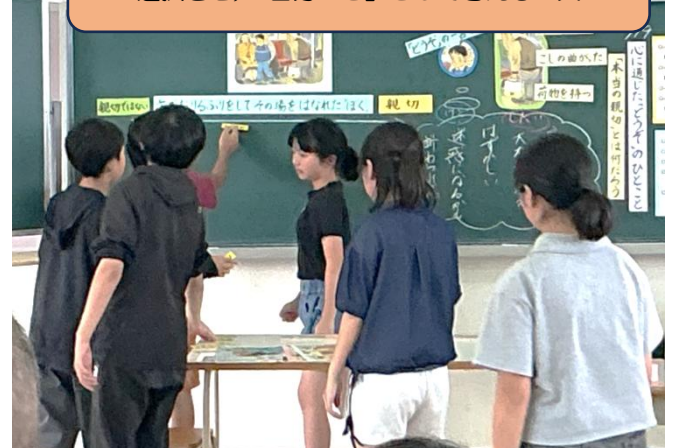
今年度初めての研究授業。「本当の親切」について、考え・議論する姿を見ていただけたのではないのでしょうか。この日までに教材選定、学級実態を踏まえ、思考錯誤しながら教材研究や指導手段について熱心に取り組んでこられた竹田先生の授業提案から、数えきれないほど多くの学びを得ることができたことと思います。『得た学び』をこれから自分がどのように実践していくのか、ここからが重要となってきます。できることから、1つ1つ実践していきましょう。竹田先生、ありがとうございました。

～「心に通じた『どうぞ』のひとつ」を振り返って～

アンケートを活用し、「自分ごと」として考えられるよう工夫された教材提示



「親切」「親切ではない」どちらの考えに近いか選択させ、「自分ごと」として考える工夫



ペアトーク、サークル対話等、話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広げたりする場の設定

考えを深める繰り返し発問

何が親切なの？

じゃあ僕は、次からもこれでいいよね？

僕の親切と、おじいさんの親切って何が違う？

自分の考えをもち、友達のことを比較しながら議論する児童の姿

●●君に似ていて～

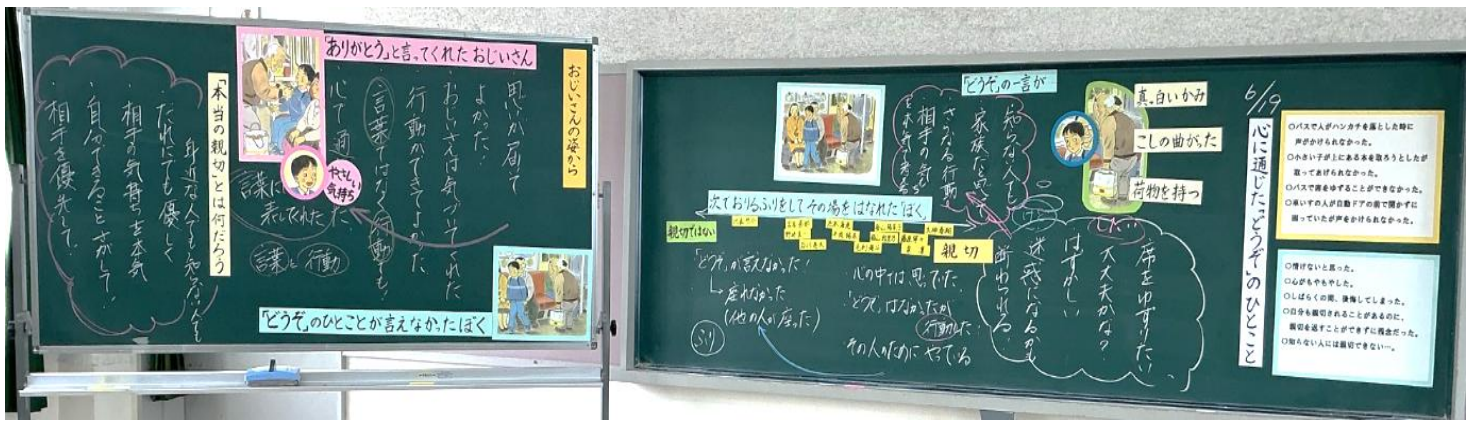
親切側の人に質問で～

でも、おじいさんは～

児童の振り返りから

今日の学習で相手の気持ちを考えることが大切だと思いました。今までの僕は席を譲ることもしなかったけど、これからは知らない人にも親切にしたいです。





協議会記録 (集約: Google Notebook LM)

「授業設計 (時間管理)」「問いの工夫」「対話の質」「主題の深め方」の4つの観点について、以下のような指摘や分析を行った。

1. 授業設計と時間マネジメント

- **議論時間の確保:** 通常の道徳は教材を読んで心情を理解するだけで終わりがちで「事前読み」を取り入れることで、授業内の約30分間をサークル対話などの議論に充てている点を高く評価。
- **実態把握の活用:** ICTを活用し事前に児童の考えを把握し、それを踏まえて授業を展開する手法の有効性。

2. 「練り上げ」のための問いの技術

- **問いの焦点化:** 教師の問いが段階的に「狭まっていく (焦点化される)」ことで、児童が答えやすくなり、議論がスムーズに進んでいる。
- **事前想定的重要性:** 教師が児童の反応をあらかじめ何パターンも「想定」し、その中から状況に応じて問い返しを選択していることが、深い学びに繋がっている。

3. サークル対話の本質

- **発表から対話へ:** 単なる「言いつばなし」の発表ではなく、意見を重ねたり、違う立ち位置を示したり、付け加えたりすることで、折り重なるように対話が進化している。
- **児童主体の空間:** サークル対話という形式だけでなく、児童が児童に質問するような関係性が授業の中で作られている。

4. 主題 (親切) を深めるポイント

- **価値のレベルの違い:** 今回の授業 (「親切」) においては、「主人公の行動」と「おじいさんの言葉かけ」のレベルの違いをより明確に意識させることが、ねらいの達成には重要であった。
- **多角的・多面的な視点:** 親切を「する側」だけでなく、「される側」や「受け取る側」の立場からも考えることで、より深い理解が可能になる。

